

【座談会】

鈴木明徴先生を囲んで

——当時の思い出を語る——

出席者 鈴木 明徴先生

久保正秋(85期) 太田直文(87期)

深津俊郎(85期) 榊 和雄(87期)

伊藤 均(86期) 望月良浩(88期)

山田 修(86期) 上田清和(89期)

上杉 健(87期) 原田康司(89期)

司 会 殿岡裕規(86期)

僕たちのOBでもある鈴木明徴先生は、母校の教師として昭和三十九年の春、静高に赴任された。今日は、OBとして、教師として、静高バスケットを愛された先生と、当時選手だった方々にお集まりいただき、思い出を語っていただいた。

部活は真剣勝負

——母校の教師として静高に来られた時、どう感じましたか。

先生 高校時代に自分が教わったことをその

通りにやればよいと、最初は思っていたね。馬渡先生が静岡東高の教頭になられて、僕が静高にくるまで一年間のブランクがあったが、その間、石野が一生懸命選手を見ていたんだよ。僕が来た時は、平口、古谷らが静岡インターハイでベスト8になったんだ。その下が山崎、望月らで、やはりインターハイに行っている。だから、とにかく強くしなくてはいけないという気持ちがあった。

——実際に指導されてみてどうでしたか。

先生 みんなも感じていたと思うが、授業中は生

徒を笑わせ、楽しく教えていたのに、体育館にやって来ると、とたんに人が変わったように鬼になった。これは、過去の栄光を守らなくてはいけないという気持ちもあったが、むしろ部活こそ教師と生徒がお互いに最も真剣になれるところだったからね。しかし、生徒がどんどんやめてしまつて、今まで通りにやっていきたくても、それができなくなつてきた。そういうことで、自分を変えていかなければならないと思い始めていたね。

うれしかったインハイ出場

——ちようどその頃が久保さんや深津さんの代だったんですね。

先生 そうだよ。そのしわ寄せがちようど久保、深津だったんだ。だからこの二人が中心になつて広島インターハイに行けたときは本当に嬉しかった。日大三島の体育館でやったインハイ予選の決勝リーグは、僕にとって一生忘れることができない

試合だ。彼らが僕にいい経験をさせてくれた。——たった二人だったのに頑張つたんですね。

久保 当時は振り返ると、ただ夢中にバスケットをやっていただけで、二人きりになつちやつたなと思つたけど、やめようなどとは考えなかった。一年の時、練習のない日は、息抜きに深津とよくおもちゃ屋へあそびに行った。

深津 上級生に言われて、先輩が履くスリッパを買いにいったこともあるね。

久保 二人だったけど、最終的にインターハイに行けたのは、いま考えてみると非常にラッキーだった。しかし、それまでの明徴先生の苦勞を考えると、胃が相当痛んだんじゃないかと思う。

先生 古傷が痛むよ。(笑い)

久保 インハイ予選の前までは弱くて、新人戦は中部予選の準決勝で市高に大差で負けたんだよな。森本さんや古谷さんから、県大会くらい出ろよと言われた。でも、試合ごとに強くなつてきて、と



昭和43年6月 インターハイ出場を勝ち取る

うとうインハイ予選で決勝リーグに入ったんだ。

今でもよく覚えているのは、東海道線で日大三島に行った時、電車の中でみんな淡々として参考書なんかを読んでいたことだ。

先生 僕もよく覚えている。でも、読んだかどうか、僕に言わせれば、ただ広げていただけじゃないか。(笑い)

久保 とにかく、絶対にインターハイに行くぞ、という感じではなかったよ。

先生 浜商にしても日大三島にしても、勝てるような相手ではなかったからな。あの当時のメンバーは誰だったかな。

久保 僕と深津、殿岡、名村、竹田の五人がスタメンでしたね。

先生 名村は結構チョコマカ動いて、ズルッこいシュートをしたんだよな。あんなにおとなしい竹田が、浜商戦でむきになってテクニカルファールを取られたりして…。

久保 今考えてみても、到底勝てるようなチームじゃなかった。(笑い)

深津 明徴先生は、誰につけという指示をあんまりされなかった。だいたい僕が殿岡は誰につけとか決めていた。

先生 それじゃ、あの時、全日本の選手になった尾鷲と青木は誰がついたんだ。

久保 名村が青木について僕が尾鷲についたんです。あの頃はあいつら下手だったんですよ。青木は飛ぶだけ。飛ぶだけだったら、名村だって飛べるし。(笑い)

深津 僕は静商との試合をよく覚えてる。四チームの中では浜商がだんとつで、残りの三チームはお互いに食い合い、得失点差で順位が決まる状況だった。静商は、僕らに六点以上差をつけて勝たなければ二位になれなかったんだ。後半、残り時間があと僅かという時、二点差で静高は負けていた。その時、静商の高木は仲間に「自分のゴール

へ入れろ」と言って叫んでいた。彼は自分のゴールに入れて同点にして、延長戦で六点以上離そうと考えたんだ。あの時は冷汗をかいた。僕が高木についていたんだが、偶然にも高木のところにボールがこなかったからよかった。もしいついたら、彼は自分のゴールに入れていただろうな。

山田 あの時、竹田がファイブファウルで僕が代わりに出たんですが、明徴先生から「負けてもいいからストーリーリングしろ」と言われた。

先生 負けていてストーリーリングしたというのは珍しいね。(笑い)

久保 僕はその時全然気付かなかった。あの頃は第二のコーチが深津だったんだよ。僕はただボールをもらって点を入れるだけだった。

深津 ほんと、久保にボールを渡せば絶対に返ってこなかった。

山田 でも久保さんにボールを渡せばほとんど決めてくれましたよ。

太田 僕は一年でしたが、あの時のことが一番心に残っています。みんなベンチで立ち上がって必死に応援しました。

——一年生から三年生までが熱く、一つになっていたんですね。そういえば、女子部員も二階で必死に声援を送ってくれていました。

深津 高校生の時というのは、みんなが盛り上がって波に乗るかどうかがとても大きな差になり、一の力が一〇にもなるんだ。インハイ予選の前に、オリンピック選手の増田先輩が一日見に来てくれたことがあった。

神 すごい先輩が来てくれたということで、あれからチームが変わってきた。

久保 僕は先輩が来てくれたそのことが、とても大きなプラスになったと思う。古谷さんが来てくれた時もディフェンスについていたら、肩幅がすごく広くて偉大に思ったが、練習が終わってからも熱心にいろいろ教えてくれた。丸尾さん、黒岩さん、

森さんもよく来てくれた。

個性

——広島インターハイは、一回戦で富山商業に負けてしまいました。インターハイが終わり、深津さん、久保さんが抜けて、次は伊藤さん、山田さんの時代ですが。

山田 久保さん、深津さんが抜けて、僕らの代はみんな小さくなってしまった。戦力は落ちたが、伊藤や名村や中川など個性の強いやつがいた。

伊藤 僕は高校時代、先生に「二つ目的を持って」と教わった。一つやるという主義だった一七、八の頃はその意味が分からなかったが、二〇年経つと半分くらい分かってきたような気がする。

山田 伊藤はよく明徴先生に怒られた。静高の体育館で練習試合があった時、最後の授業をさぼって一人でコートに椅子を並べていて、こっぴどく怒られたことがある。

先生 今思えば、均はとにかくバスケットが好きだったんだよな。(笑い)

深津 僕なんかの価値判断からいうと、均みたいにバスケットの好きなやつを、もっと試合に使えばいいと思った。

先生 なるほど、そうかもしれない。あの頃、均は何度も悩んだことがあっただろうな。悪いことをしたな。

伊藤 いえいえ。(笑い)

先生 僕の恩師で野球部に田口先生がいた。僕はよく田口先生にくっついては、いろいろ教えてもらった。ある時、田口先生に「明徴さん、ニアウト満塁の時にヒットを打つ選手はどんなやつだと思いかね——普段扱いかねているやつがヒットを打つんだ。だから、スポーツにおいては「ぐせ」があるからダメだと判断しては絶対いけない」と言われた。それが、その後の僕にとってはすごくいいアドバイスになった。

やりたくてたまらない

——先生も生徒もいろいろ悩み、考えながらバスケットをやったのですね。次は太田さんや榊さんや上杉さんの代ですが、まだ入学前の春休みから練習を見にきたんですね。僕たち二年生はとても嬉しかった。

榊 僕らは練習にも参加しましたよ。

太田 バスケットをやりたくてたまらなかつたんですよ。一年の時の一番の思い出は、インターハイに連れていってもらったことです。二年の時は、殿岡さん達の最後の試合ですが、インハイ県予選で藤枝東にベスト8で負けてしまった。やった、という感じがなかつたですね。翌年の僕らの時もベスト4に入る前に、浜西にこれまた不甲斐なく負けてしまった。

先生 チョコマカ、チョコマカ点は取るけど、芯がなかつたな。

太田 負けると思わなかった相手に負けてしまった。
た。

先生 みんな小さかったからね。平岩とかはうまかったけど。

原田 僕が一年生の時だったんですが、上杉さんは零度からの速打ちシュートを決め、平岩さんがガードでゲームを作り、杉山さんがリバウンドで頑張るなど、それぞれの選手に特徴があった。中部大会で清水南に勝って優勝したが、あの試合を分析してみると、清水南の方が能力は上だと思っただね。——中部大会では50対45で清水南に勝ったんですね。

原田 あの時は杉山さんが試合前の練習で唇をきつて、血をだしなからもしリバウンドで頑張るし、要所所で働くべき人が働いて勝った。

先生 たしかにみんなうまかったな。しかし、静岡というのはみんな頭がよくて、ガードみたいな選手ばかり集まってしまうんだよね。

上杉 僕らの代もそうでしたね。

望月 中村さん、増井さん、木村さん、平岩さん、榊さんなど、みんなガードでしたからね。

——そのガードの榊さん、なにか思い出を話してくれませんか。

榊 僕もレギュラーになれなかったけど、三年間一生懸命バスケットをやってよかったと感じている人が静岡には多いと思う。決してスポットライトを浴びなくても、上田君のように、今もおバスケットにかかわっていてくれる人がいるのがとても嬉しい。それが、静岡のバスケット部のよさだと思う。

先生 俺もそう思うな。

憧れの静岡バスケット

——静岡のバスケットは中学の時から憧れの的だったですね。

原田 僕は、静岡に入ったからバスケットを絶対や

ろうと思っていた。

榊 憧れだったよね。

上杉 小学校の頃、インターハイを静岡でやっていてバスケットを見にいったら、静岡が出場していた。それと小学校の教科書にローマオリンピックの写真があった、増田さんが載っていた。この人が静岡の選手だったと知って、僕も静岡でバスケットをやれたらいいなと思った。

原田 僕は静岡のあの水色のユニホームに憧れましたね。パンツも少し長めで品がよかつたね。

先生 なにが品がいいだか。(笑い)

望月 僕なんかも、ただあのユニホームが着たかつた。

原田 僕が入学して練習にきた時、まず驚いたのが掃除です。中学の時は下級生が掃除して先輩は掃除が終わるのを待っていたんですが、静岡は二、三年生がほとんど掃除しているんですね。

上田 僕らがうっかりしていると、掃除が終わっ

てしまう。(笑い)

望月 それは明徴先生の方針だったんだよ。

原田 明徴先生の一貫した指導方針というのは、合理性だと思う。

上杉 当時の静岡は、それほど能力のある選手が入ってくるわけではないし、コートも女子と一緒に使っていたから、短時間で質の高い練習を追求したんだよ。だから掃除も大事な練習だったんだよ。

原田 静岡バスケットの部活は一流だと思う。形ではなくって、どうあるべきかという本質をついている。それに明徴先生も生徒も真剣だった。いづだったか練習をしていたら、式典の準備の先生がやって来た。「お前ら、どけ」と一方的に言った時、明徴先生が「俺たちは遊んでいるんじゃないぞ!」とものすごく怒ったんですね。その時の明徴先生の真剣さが伝わってきた。いまでもよく覚えてます。

明徴先生と寺尾先生の名コンビ

——明徴先生の指導方針の中に、もう一つ大切なことがありましたね。それは、女子の部も男子と同じように育てようと努力したことです。

山田 寺尾先生と明徴先生があの時代に力を合わせて頑張ったから、今も女子の部が続いていると思う。

上杉 ただでも部員が多かったのに、たった一面しかないコートに男女で使ったんですね。スクエア・パスやランニングシュートも一緒にやっていました。

——男子から見れば、多少不満もあつたでしょうね。

上杉 高校のバスケットは何といってもインターハイへ行くのが夢ですよね。僕が一年の時に深津さん達がインターハイに行ったが、あの時、静商の三年生が体育館の片隅で泣いていた。出場でき



昭和44年 3年生の送別試合にて

るチームと出来ないチームの明暗が心に焼きつき、僕らも目指すところはインターハイしかないと思っただ。だから、練習でもっともつと先生にしごかれてもいいと思っただ。とにかく強くなりたかった。しかし男女一緒に練習だったから、物足りなさをいつも感じていました。

榊 練習は自分達よりうまいやつとやらなければ強くないからね。

望月 上級生が不満だったのは僕にも分かりました。でも、僕らは男女一緒にやるのが当たり前だと思っていました。

上田 違和感はまったくなかったですね。一面しかコートが使えなかったから、いずれにしても一緒に練習するしか方法がなかったと思います。

——男女一緒に練習をしていたことで、寺尾先生にも大変お世話になりましたね。

榊 明徴先生と寺尾先生は名コンビだったな。まるで「カミナリおやじ」と「おふくろさん」。明徴先

生が怒って、みんながシュンとしてしまおうと寺尾先生がいつも励ましてくれた。

太田 休部騒動事件というのがあった。明徴先生に「お前ら全員クビだ」と言われたが、その時も寺尾先生がなだめてくれた。

先生 事件といえは、滝口の時も一つあったな。シャンソンと練習試合をやって、俺が滝口に怒って「お前、帰れ」と言ったら、あいつ「お先に失礼します」と言って本当に帰ってしまった。

原田 それで終わればいいのに、先生は下級生の僕らをつかまえて「なぜ止めなかったんだ」と、僕らまで怒られた。寺尾先生がその時いればよかったですね。（笑い）

——明徴先生は一三年間も僕たちをご指導してくださいましたが、今日来られなかった代の方々がお集まりくだされば、もっといろいろなお話が聞けたと思います。本当に楽しいお話、ありがとうございました。